

# YMS 2019年度 解答速報

## 埼玉医科大学 前期



### 【生物（解答）】

1

- 問 1 (1) 1 - ①  
(2) 2 - ⑥  
問 2 3 - ②  
問 3 4 - ⑥  
問 4 5 - ①③  
問 5 6 - ③⑤  
問 6 (1) 7 - ②④  
(2) 8 - ③⑤

2

- 問 1 9 - ⑦  
問 2 10 - ⑦  
11 - ③  
12 - ③  
問 3 (1) 13 - ①⑥  
(2) 14 - ②  
問 4 15 - ①  
問 5 16 - ⑦  
問 6 17 - ⑤  
問 7 18 - ①  
19 - ①  
20 - ⑥  
問 8 21 - ②④  
問 9 22 - ③⑤

3

- 問 1 23 - ①  
問 2 24 - ①  
25 - ①  
26 - ⑨  
問 3 (1) 27 - ⑨  
28 - ⑧  
29 - ③  
(2) 30 - ③  
問 4 31 - ③⑤  
問 5 32 - ④  
問 6 33 - ②

4

- 問 1 (1) 34 - ①  
35 - ①  
(2) 36 - ①  
37 - ①  
(3) 38 - ①  
39 - ⑨  
問 2 (1) 40 - ⑦  
41 - ④  
42 - ⑦  
43 - ⑦  
44 - ⑧  
45 - ④

5

- 問 1 46 - ④  
問 2 47 - ①  
問 3 48 - ③  
問 4 49 - ③  
問 5 50 - ③④  
問 6 51 - ①③  
問 7 52 - ①④  
問 8 53 - ②⑤  
問 9 54 - ①⑤

## 【生物（講評）】

過去3年間(2016～2018)は、大問6題での出題であったが、今年度は、大問5題となり、大問数が1題減った。ただし、マーク数は、今年度54、2018年度47、2017年度46、2016年度54であり、問題の分量が減ったわけではない。今年度入試においても、例年通り、計算問題が多くて時間を取られるので、手際よく解答していかないと時間が足りなくなる。

**1** 生殖と発生に関する出題。全て標準的な知識問題であり、知識の抜けやあやふやな知識がなければ解答に時間はかからない。高得点が望まれる。

**2** 生態系や植物に関する出題。区画法による個体数の推定(問2)、生命表での産卵数の計算(問3(2))、生態系におけるエネルギー量の計算(問7)などの計算問題で時間を取られる。

**3** 尿生成に関する出題。水の再吸収量(問2)や再吸収率(問3(1))を求める計算問題は医学部入試では定番である。後半の問題(問4～問6)で、グルコース輸送体の有無や阻害剤を投与した場合のグラフが出題されており、グラフの読解力と考察力が必要とされる。

**4** 生物の進化に関する出題。遺伝子頻度の計算(問1)と血縁度の計算(問2)のみの出題であり、差がつきやすい。過去に類題を解いたことがある場合は、短時間で処理できるが、経験値が低いと時間がかかる。

**5** 小問集合。いずれも基本的であり、解答に時間はかからない。ここでの失点は避けたい。

全体として、知識問題は基礎～標準的なものが多いので、計算問題をいかに手際よく解答できたかによって得点に差が出る。一次突破ラインは、70%程度と予想される。